

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F146310111671	設置等組織名	人間科学部（デジタルソリューション学科、教育・心理学科）
大学名	鹿児島純心大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	鹿児島	事業計画名	鹿児島純心大学人間科学部デジタルソリューション学科新設

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1		本学部・学科の再編に向けた検討体制を構築するにあたり、本学におけるフェーズ1の取り組み計画は次の通りである。 1－① 令和6・7年度 高校生を対象としたニーズ調査（リクルート、九州企業連携等）（県・市は出向いて） 本学が独自で調査した高校生のニーズ調査結果を基に今回新規に設置するデジタルソリューション学科のコンセプトは考慮している。認可申請予定であるデジタルソリューション学科は情報学およびデータサイエンス・AIを基盤とし、人文科学・社会科学・自然科学の幅広い分野を学習し、フィールドワークも取り入れた文理横断型カリキュラムを設置する。このことから情報学をはじめとする理系の生徒やこれまで理数系とはあまり縁のなかった文系の生徒を幅広く募集することが可能となっている。このような学科コンセプトと今回実施するニーズ調査がおおよそ一致する方向性にあるかを確認する。 1－② 令和6・7年度 地域連携のためのフィールドワーク学生派遣先の開拓および交渉・打ち合わせ 設置認可申請予定のデジタルソリューション学科のカリキュラムでは、地域に貢献する学生の育成を目的にフィールドワークを多く設ける予定である。その学生派遣先の開拓および交渉を行っていく。派遣先詳細については、様式1-2に記載済である。 1－③ 令和6年7月～ 人件費および新学科の検討企画会議と申請準備 計画のブラッシュアップに必要となる事務職員を1名雇用する。各部署への連絡、フィールドワークでの派遣先との連絡、検討企画会議の補佐、多種にわたる情報収集整理等の事務作業を担ってもらうことにしている。 1－④ 令和6・7年度 学生募集に関わる広報活動費用 今回の支援事業に申請するにあたり、設置認可の申請を直ちに行い、フェーズ2の施設設備整備を経て令和9年度のデジタルソリューション学科の開設を目指す。設置認可申請後に学生募集のための広告を多種メディアに打ち出す計画である。 1－⑤ 令和7年9月～ 人件費および申請準備 設置認可に必要な支援員を1名雇用する。設置認可申請に関わる業務の事務作業を担ってもらうことにしている。 1－⑥ 令和8年3月 キックオフシンポジウムの開催 地域や高校生等に新学科のコンセプトを周知するために、地域課題解決(PBL)を実施していく地域や関係機関と連携してキックオフシンポジウムを開催する。	本学部・学科の再編に向けた検討体制を構築するにあたり、本学におけるフェーズ1の取り組み計画は次の通りである。 1－① 令和6・7年度 高校生を対象としたニーズ調査（リクルート、九州企業連携等） 令和6年11月に鹿児島県内の全高校の進路担当教員に新学科への要望・意向を調査した。高校生については、令和6年度では1年生が対象となり、生徒自身が進路自体に関心が無く、担任にアンケートを依頼してもほぼ協力は得られないため、より確実性が期待できる2年生を対象とすべきとの判断から高校生のニーズ調査は令和7年度での実施とする。企業等への調査も新学科の目標や教育課程・取得資格等が固まる令和7年度とした。（R7.3.28承認） 1－② 令和6・7年度 地域連携のためのフィールドワーク学生派遣先の開拓および交渉・打ち合わせ 令和6年度は薩摩川内市と協議を行い、具体的な派遣先を今後決定していく。他の地域については令和7年度に拡大していく。 1－③ 令和6年7月～ 人件費および新学科の検討企画会議と申請 事務スタッフを募集したが採用に至らず、業務は既存の事務職員で対応した。 1－④ 令和6・7年度 学生募集に関わる広報活動費用 新学科設置構想中として、広報活動を展開した。リクルートによるスタディサプリ利用とWebDMを実施した。駅のLED広告でオープンキャンパスを告知した。（R7.1.30承認） 1－⑤ 令和7年6月～ 人件費および申請準備 設置認可に必要な支援員を1名雇用する。設置認可申請に関わる業務の事務作業を担ってもらうことにしている。 1－⑥ 令和8年3月 キックオフシンポジウムの開催 地域や高校生等に新学科のコンセプトを周知するために、地域課題解決(PBL)を実施していく地域や関係機関と連携してキックオフシンポジウムを開催する。	R6年度自己評価 【2】計画を十分には実施していない。 新学科の目標や教育課程を構築するにあたり、取得できる資格についての結論が難航し、検討企画会議や外部委員の委嘱を持ち越した。フィールドワーク学生派遣先の開拓および交渉についても令和7年度を中心に実施していく。	
				○年度自己評価 リストから選択してください。	
認可申請又は届出	令和8年3月	人間科学部デジタルソリューション学科 設置認可申請予定			
フェーズ1後倒し				○年度自己評価 リストから選択してください。	
フェーズ2		本学におけるフェーズ2（設置認可申請の受理から学科の開設までの期間）の取り組み計画は次の通りである。 2－① 令和8年度 サテライト授業環境の構築 新設する学科は1年次のみ川内キャンパスと鹿児島キャンパスとでサテライト授業を実施する予定である。そのための授業支援システムとして、ハイフレックス型授業にも対応したAIカメラ、マイク（ビームフォーミングマイクロフォン）、アンプをはじめとしたオーディオ機器類等の一式を両キャンパスに整備し、川内・鹿児島キャンパスのどちらからでも同じ授業を受講可能な環境を整備する。 2－② 令和8年度 協働学習のための什器類整備 授業によっては講義をメインであってもプレゼンテーションやディスカッションなどのグループワークを行うことがある。様々な授業形態にすぐに対応できるよう、移動が容易な什器類の整備を行う。 2－③ 令和8年度 PC密着化のための認証環境整備 新設する学科は1年次のみ川内キャンパスと鹿児島キャンパスとでサテライト授業を実施するにあたり、学生はPCを必須化とし、授業を受ける。その際、ネットワークに接続するための認証機器をはじめとしたネットワーク機器の整備を行う。		○年度自己評価 リストから選択してください。	
開設又は定員増	令和9年4月	人間科学部デジタルソリューション学科 開設予定（入学定員40人、工学関係）			
フェーズ2後倒し				○年度自己評価 リストから選択してください。	
フェーズ3		本学におけるフェーズ3（学科の開設後から完成年度が終わるまでの期間）の取り組み計画は次の通りである。 3－① 令和9年4月から完成年度まで 学生募集に関わる広報活動費用 フェーズ1で行った学生募集のための広報活動をフェーズ3においても継続的に実施する。テレビ・ラジオ等のメディアを中心に、ネット広告についてはフェーズ1での結果を分析した上で広報活動の手法を検討していく予定である。また、高校生等を対象としたフェアを開催する。 3－② 令和9年4月から完成年度まで フィールドワーク学生派遣先との打ち合わせ フェーズ1にて地域連携のためのフィールドワーク学生派遣先を開拓し、協力がいただける企業と継続的に打ち合わせを実施する。フェーズ1にて合意した内容を基にフィールドワークの実施内容の詳細を確認し、より良い方向性を見出すことができるよう打ち合わせを行う。 3－③ 令和9年4月から完成年度まで 人件費 計画のブラッシュアップに必要となる事務職員を1名雇用する。各部署への連絡、フィールドワークでの派遣先との連絡、検討企画会議の補佐、多種にわたる情報収集整理等の事務作業を担ってもらうことにしている。 3－④ 令和9年度 在学生や高校生を対象としたニーズ調査の継続 時代の流れて変化する傾向を把握するために、在学生・保護者やステークホルダーへのアンケート調査や高校生などへのニーズ調査を引き続き継続して実施する。 3－⑤ 令和12年度 学生による活動成果発表およびシンポジウムの開催		○年度自己評価 リストから選択してください。	
				○年度自己評価 リストから選択してください。	
				○年度自己評価 リストから選択してください。	
定員減又は学部等の廃止	令和8年4月	人間教育学部教育・心理学科 40名減員に係る届出予定（入学定員45名、教育関係、人文科学関係）			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	鹿児島純心大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	鹿児島純心大学
-------------	-------	-----	---------

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
3年次開講の「フィールドワーク」は地域課題解決(PBL)の基礎として位置づけ、4年次の「卒業研究」では、3つのフィールドに分かれ、データサイエンスの知識を活かしながら、データに基づいた問題解決能力を実践する計画である。この計画を実現するため、多くの地元自治体および地元企業等の関連機関に協力いただき、連携を図る計画である。「卒業研究」に関しては、学内のみでの発表ではなく各連携機関の関係者にも出席あるいはオンラインにて参加していただき、コメント等をいただく予定としている。	令和6年度は、新設学科の3年次開講科目「フィールドワーク」および4年次開講科目「卒業研究」において、データサイエンスの知識を活かした問題解決能力を実践的に育成するための基盤として、既設学科で開講されている「地域プロジェクトマネジメントⅠ」に地域課題解決型学習（PBL）を導入した。 令和7年度には「地域プロジェクトマネジメントⅡ」において、地元自治体である薩摩川内市や企業などの関連機関と連携し、PBLの実践をより深化させていく予定である。 また、今後、「若手チャレンジプロジェクト」（入所3年目の若手職員研修）「行動実践班」に参画するために薩摩川内市役所と調整しており、地元イベントへの参加を通じたコミュニティ活動に取り組むことで、学生は実務経験を積みながら、地域社会の現場感覚や他者理解の基盤を形成していく。 これらの取り組みにより、学生は理論と実践を融合させた学びを通じて、地域社会に貢献できる実践的な力を養っていく計画である。	令和6年度の実績および進捗状況を踏まえ、令和7年度は「地域プロジェクトマネジメントⅡ」履修者2年生10名が、地元自治体である薩摩川内市役所の「若手チャレンジプロジェクト」（入所3年目の若手職員研修）に加わり、同プロジェクトの「行動実践班」と連携して地元イベントなどのコミュニティ活動に参画することで、地域社会の現場感覚を体得し、他者理解の基盤を築く活動（5月～9月の約10回）を行っていく。さらに、「政策調査・実践班」との混成チームを編成し、地域や行政が抱える課題の調査・分析を行い、具体的なアイデアを提案することで、行政課題の解決に向けた思考力と提案力を養う場（市長への提言報告会）があり、今後は、課題分析や提案においては、データサイエンスの基礎的スキルを活用し、論理的かつ説得力のあるアプローチを実践する力を育むとともに、他者との対話を通じた学びと自己の成長を促進することも重要である。 これらの取り組みを通じて、実社会における課題解決力と協働力を高めていくことが、新学科における今後の重要な課題である。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☐ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☐ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
地域の初等中等教育段階の学校との連携事業として、本学は初等教育の教職課程があることから、薩摩川内市教育委員会と連携し「学校インターンシップ」を1年次から行っており、毎年40名ほどの学生が地元の幼稚園・小学校・中学校に就業体験を行っている実績がある。加えて、英語科目（児童英語）の中に小学校で英語を教える機会もあり、学内の講義を培った教授法を基に、小学校の現場で実際に授業をすることも行っている。また本学ではこれまで出張講義を実施し、地元の薩摩川内市内の小中学校、あるいは県内高校をはじめとした多くの教育機関を対象に多くの実績を挙げている。今後はさらに実績件数を増やすため県および市教育委員会へ働きかけを行う予定である。 また、本学ではこれまで教職、心理職、保育士等を多く輩出している実績から、これらの専門職に関する社会人向けのリカレント教育の拡充も目指していく。	地域の初等中等教育段階の学校との連携事業である薩摩川内市内での「学校インターンシップ」については1年次から取り組んでおり、令和6年度は79名の学生が地元の幼稚園・小学校・中学校で就業体験を行った。 また、小学校英語フラッシュアップセミナーや中学校の英語授業力講座の開催や、地域連携を基にした研究授業サポート事業20件を実施するなど、学校現場での教育力向上の支援を行うことができた。小中学校向けの出前講座は2件実施、高校生対象の出張講義は27校で実施できた。今後実績件数を増やすため県および市教育委員会へ働きかけを行う。 なお、社会人向けの講座「がんとともに生きる心の寄り添う社会を目指して」や、心理臨床相談センター公開講座「子育て支援を考える～ボーイズタウン・コンセンサスベアレンティングとは～」等の講座を実施した。また、北薩地域の心理職が参加する連絡会を定期的に開催できた。	

大学名	鹿児島純心大学
-----	---------

大学名	鹿児島純心大学
-----	---------

本事業対象となる学部等の個数	1
----------------	---

1.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	既存学部における学科の新設
学部学科名	人間科学部デジタルソリューション学科

[illegible]

大学名	鹿児島純心大学
-----	---------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	170	170																	
		入学者数	人	144	148																	
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	0	0																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	170	170																	
		入学者数(B)	人	144	148																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.85	0.87																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	696	696																	
		編入学定員	人	8	8																	
		在籍者数(D)	人	584	573																	
		編入学者数	人	27	20																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.84	0.82																	

4.外部資金の状況（全学）

年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況		選定－6年	選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定													
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	31,572	26,096	31,715	17,739	19,255	20,972													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	25,641
本事業による助成金の額(F)	千円	270,000
フェーズ3の助成期間終了時まで達成する額(E+F×2.5%)	千円	32,391

特記事項